

予防に向けた先進医療の現況(令和3年度報告)

本村悟朗、河野紘一郎、山本典子、田中秀直、池村聡、中島康晴 (九州大学 整形外科)
山本卓明 (福岡大学 整形外科)

先進医療 B「全身性エリテマトーデス患者における初回副腎皮質ホルモン治療に続発する大腿骨頭壊死症発生抑制治療」の現況について、以下の報告を行った。2019年3月に特定臨床研究への移行が承認されて以降、症例登録は順調に伸び、2021年6月時点で総登録症例数は36例となった。試験薬3剤の併用投与はこれまでのところ安全に行えている。

1. 先進医療の概要

先進医療 B「全身性エリテマトーデス患者における初回副腎皮質ホルモン治療に続発する大腿骨頭壊死症発生抑制治療」(2014年8月1日に認可)は、初回ステロイド治療開始と同時に以下に述べる試験薬3剤を90日間併用投与することによる大腿骨頭壊死症発生抑制効果を検証する臨床研究である。試験薬は、抗血小板薬(クロピドグレル硫酸塩:プラビックス®)、高脂血症治療剤(ピタバスタチンカルシウム:リバロ®またはリバロ OD®)、およびビタミン E(トコフェロール酢酸エステル:ユベラ®)の3剤で、大腿骨頭壊死症の評価は治療開始180日後にMRIにより行う。

2. 進行状況

本研究は2019年3月15日に特定臨床研究へ移行し、協力医療機関は2019年11月までに以下の11施設となった。(慶應大学病院、九州大学病院、京都大学病院、千葉大学病院、北海道大学病院、新潟大学医歯学総合病院、埼玉医科大学総合医療センター、順天堂大学医学部附属順天堂医院、産業医科大学病院、佐賀大学医学部附属病院、福岡大学病院)。2018年12月までの総登録症例数は11例であったが、2019年には8例、2020年には14例、2021年1月から5月末までに3例の新規症例登録が行われた(総登録症例数は36例)。これまでのところ、試験薬3剤の併用投与は安全に行われている。

3. 今後の展望

中間解析が行える50症例の登録を目指している。

4. 研究発表

1. 論文発表

本村悟朗、中島康晴、山本卓明. 先進医療による骨壊死発生予防の試み. 関節外科 40;1301-1304,2021.

2. 学会発表

なし

5. 知的所有権の取得状況

1. 特許の取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし